

漢語複合名詞に接続する複合助詞

言語学・応用言語学専門分野 1LT10121N 平原里美

1. 問題提起

先行研究においては、「とともに」は動詞にも名詞にも接続可能であるのに対して、「につれて」は名詞に接続すると容認度が下がると言われてきた。

- (1) a. [VP 山道を登っていく]{とともに / につれて}、少しずつ眺望が開けてきた。
- b. [VP 日がたつ]{とともに / につれて}、胸の痛みも薄らいでくるだろう。
- c. [NP 時代]{とともに / ??につれて}、流行も変わる。
- d. [NP 南下]{とともに / ??につれて}、気温が下がる。

しかし、「につれて」が名詞に後続していても容認度が下がらない例がある。本論文では、(1)と(2)の違いがなぜ生じるのかを考察した。

- (2) [NP 技術の進歩]{とともに / につれて}生活が便利になる。

2. 主張

- (3) 形態的な名詞 / 動詞の区別に加えて、意味的な名詞性 / 動詞性の区別もあると考える。
- (4) 形態的に名詞であり、意味的にも名詞性を持つ例
 - a. 時代、年齢
 - b. 動詞の連用形語幹の名詞用法： 時代の流れ
 - c. サ変動詞語幹： 南下、変化
 - d. サ変動詞語幹を主要部とする複合語： 技術進歩、人口増加
- (5) 形態的には名詞であるが、意味的には動詞性を持っている例
NP + ノ + サ変動詞語幹： 技術の進歩、人口の増加
- (6) 提案する一般化
「とともに」は動詞にも名詞にも接続可能であるが、「につれて」は**意味的に名詞性を持つものに**接続すると容認度が下がる。

(7) (4a,b,c)の例

- a. 年齢{とともに / ??につれて}忘れっぽくなる。
- b. 時代の流れ{とともに / ??につれて}流行も変わる。
- c. 変化{とともに / ??につれて}対応が変わる。

(8) (4d)の例

- a. 技術進歩{とともに / ??につれて}生活が便利になる。
- b. 人口増加{とともに / ??につれて}街がにぎやかになる。

(9) (5)の例

- a. 技術の進歩{とともに / につれて}生活が便利になる。
- b. 人口の増加{とともに / につれて}街がにぎやかになる。

3. 容認度の調査

(4d)と(5)で「につれて」の容認度が変わることを確認するために、以下のような実験文を5種類作成し、オンラインまたは質問紙による5段階選択方式のアンケート調査を行った。対象は、大学生・大学院生15人である。

- (10) 人口の増加{とともに / につれて}街がにぎやかになる。
人口増加{とともに / につれて}街がにぎやかになる。
人口が増加する{とともに / につれて}街がにぎやかになる。
人口が増える{とともに / につれて}街がにぎやかになる。

実験の結果、「～とともに」は被験者分析において、複合助詞の種類と前部要素の種類の主効果がともに有意であり有意差はなかった(すべて $p > .01$)が、「～につれて」は有意差があった(すべて $p < .01$)。

参照文献

影山太郎 (1993) 『文法と語形成』東京：ひつじ書房

砂川有里子 (1987) 「複合助詞について」『日本語教育 62号』日本語教育学会, pp.42-55.

田中寛 (2010) 『複合辞からみた日本語文法の研究』東京：ひつじ書房

藤田保幸、山崎誠 (2006) 「新聞記事データに見る「につれて」「にしたがって」」『複合辞研究の現在』大阪：和泉書院, pp.103-112